令和５年度　第１回 丹波市立図書館協議会　会議録（要旨）

◇日　時：令和５年８月 30 日（水）
◇開　会：午後１時 30 分
◇閉　会：午後３時 30 分
◇会　場：丹波市立中央図書館　視聴覚室
◇出席者：（会　長）畑田　久祐
（副会長）中澤　利恵
（委　員）足立　宏幸　　伏田　雅子　　藤原　廣宣　　常石　孝子
吉住　美代　　矢本　正巳　　梅垣　泰三　　細見　能成
◇欠席者：なし

◇図書館事務局：小畠　崇史　　近藤　利明　　高見　弘子　　勢志　美代子
嶋﨑　美紀

１．開　会
進行：丹波市教育委員会教育部社会教育・文化財課　課長　小畠　崇史（以下、課長）

２．あいさつ
丹波市立図書館館長　近藤　利明（以下、館長）

本協議会は当初７月に予定していたが、私どもの都合で日程を変更したことをお詫び申し上げる。

８月５日の経済新聞に、今、公立図書館をまちづくり拠点にする動きが広がっているという記事が載っていました。その一例で、和歌山市民図書館では、図書館でヨガ教室、演奏会、子どもと過ごせる空間など、周辺地域の活性化に繋がっているとのことである。

従来の本の貸出・返却という図書館の枠を超えた、人を呼ぶ拠点施設として注目されている。近年、市民が集まる図書館を、商業施設などと複合化して再整備する自治体が増えている。今後は市民のニーズに合った図書館づくりが必要であろうと思われる。

本日、委員のみなさまには、忌憚のないご意見を賜りたい。

畑田会長（以下、会長）

本日は全員による協議会を持つことが出来、皆さんの意見を聞けるのはありがたい。今後の図書館運営について忌憚のない意見をいただき、本日の図書館協議会がスムーズに進むよう協力をお願いする。

３．報告・協議事項
以下の事項は、会長の進行による。
（１）令和４年度　図書館事業と利用統計年報について（概要報告）

①令和４年度事業取組状況　資料１－１
②新型コロナウイルス対応状況　資料１－２
③利用統計年報（広域含む）　資料１－３
④電子図書館利用状況　資料１－４

説明：図書館係　係長　高見　弘子（以下、係長）

委員
　登録者の中で、亡くなられた方や転出された方は、この中から抜いていくのか。

係長
　届出があった場合は削除していくが、図書館システムは住民基本台帳システムと連携をしていないので、そのまま登録が残っている方がある。

委員
　死亡届が出された時点で、市民課窓口では、「図書館カードをお持ちですか？」と確認したり、「図書館カードの登録抹消に行ってください」など、促しているのか。
　登録者数がだんだん膨らんで、この数字自体が本当に有効な数字と言えるのか疑問である。

係長
　市民課の窓口に確認する。

委員
　他府県在住で、母の看護のため丹波市に滞在中の方から「母が亡くなって母のカードで本が借りられない。どうすればいいか。」と尋ねられた。マイナンバーカードで借りるというのは全国で可能か。

係長
　丹波市立図書館では、利用者カードにマイナンバーカードを紐づけしているだけで、マイナンバーカードがあれば全国の図書館を利用できるというものではない。

委員
　亡くなった方のカードの登録が消えないのであれば、そのカードで借りるがことができるということか。

係長
　登録状況については、３年ごとに確認をしたうえで利用していただいているので、そのままの状態で貸し出しはしない。

委員
　住民基本台帳とタイアップしていると思っており、死亡届が出たら自動的に使えなくなると思っていた。そのため、先ほどの方には「亡くなった方のカードは使えない」と答えた。

係長
　基本的にはご自分の名義のカードを使っていただきたい。ひと月の半分以上丹波市に居住があることを確認できれば利用者登録できる。公共料金の通知などで居住を確認するほか、民生委員の方にその証明書類を作っていただいて確認している。

副会長（以下、副会長）
　19 歳～22 歳、23 歳～29 歳になると、登録率が 100％を超えている。ほとんどの子が図書館カードを持っているということか。学校でみんな登録するのか。

係長
　４ケ月健診の時、ブックスタート事業で登録の案内をしている。
　学校で呼びかけていただく等もあり、小学校のうちに登録する場合が多く登録率が高くなっている。

委員
　利用率は少ないが、登録は多いということになっている。

会長
　転出した子どもはについて、抹消の処理ができていないということか。

委員
　大学進学等により、市外へ転出した人の登録が残ったままになっている。

係長
　登録は通年の登録数でみており、人口は令和５年３月末でみているので、100％を超える数字が出ていると思われる。

委員
　この数値は意味のない数値を細かくあげている。もっと実態に即した数字を教えてほしい。この数値から「もっと図書を借りるようにどうすればいいか。こういう方法でやろう。」という話にはつながらないのではないか。

会長
　実際の議論は、「登録者をどうみるか、有効登録者をどうみるか」は重要な話だ。統計上は、このような数値を取らなければいけないシステムになっていると思うが、ここ

で議論するにあたっては、資料内容を変更できるのであれば、先ほどの意見のように、現実に即した数値の方がわかりやすいと思う。

係長
　検討する。

会長
　コロナで通常のような図書館の利用ができない時期もあったが、それが戻ってきたという話であったが、経年でみると、図書館の利用が減ってきているとみるのが正しいのか、戻ってきたとみるのが正しいのか、その辺の議論も含めてみなさんの意見をいただきたい。
　従来この協議会では、固定客というか借りる人は決まっていて、新たな利用者を本当に開拓しているのかという意見がたくさん出ていた。その点も含め、図書館を委員さんがどう見られているか、ご意見いただきたい。

副会長
　読み聞かせグループの活動をしていて、月に２回、図書館でのおはなし会を実施しているが、来場者は減ってきている。常連の来場者も戻ってきていない。コロナ前は、聞きに来てくれる常連の方があり、おはなし会の時間中も、図書館に小さい子がたくさん来館していたが今はシーンとしており、来館者が少ないと感じている。

委員
　私も読み聞かせを月に１回、市島図書館でしているが、参加者がゼロのときがある。子どもの数も減っているが、利用も少ないと感じている。

委員
　最近、何度か図書館へ来たが、館内を見渡しても減って来ているように感じた。
　会長も言われたが、前から全体的は変動があるが、全体的には減ってきているということで、館長の挨拶にもあったが、新たな視点、まちづくりの拠点というそういうものを何か持ってこないと変わらない気がする。

委員
　まちづくりの拠点ということで言えば、住民センターで事業をやっているので、今更図書館がその地域の拠点というのはちょっと違うと思う。
　もしも、地域の拠点と考えるなら、中央図書館を閉館にして、人を呼び込むような１つの大きなものを作る方向にするのか。今の５つの住民センターは地域の拠点としてずっとやってきている。図書館も住民センターにある。だからそれらをどうするのかという、今後の方向性が必要ではないかと思う。

委員
　これからの問題になると思う。

会長
　この統計からみられる状況に絞って意見をいただけたらと思う。
　今回新たに電子図書のカウントが入ったが、電子図書を利用している方は、これまで図書館を利用していなかったが、新たに電子図書ができたから利用したのか。これまでから図書館を利用していたが、電子図書が便利だからと電子図書を利用しているのか。その辺は何かみえるものはあるか。

係長
　各館の窓口で聞いている限りでは、電子図書館を利用したいから登録しますという方は、それほどないように感じる。新たに図書館の利用登録をされる時には電子図書館も利用できるということは必ず伝えている。同時に２つのシステムに登録しているので、利用者数は新規の登録者は電子図書館の登録者として計上されるが、電子図書館を目的に登録されているようではない。

会長
　「よもよも」の福袋が新しく実施され、160 袋すべて貸出となったということだが、受けの良い企画だと思う。子ども読書の日を前提で実施されているが、図書館での宣伝や広報はどのようにしているのか。

係長
　元々、「よもよも」という年代ごとの本のリストがあり、その年代にあわせて各館で本を選定した。４月に丹波新聞社に中央図書館での作業の様子を取材していただき、掲載いただいた。また各館カウンターにチラシを置き、声かけをして周知した。

会長
　自分で選書するのが楽しい人と、それが大変なので選書したものを借りる方が便利という人と、２通りあると思う。また、160 セットは結構多いのがその点を職員はどう感じているのか。

係長
　職員として負担はあるが、図書館にはたくさんの本があるので、全部の中から自分で選ぶのは難しいが、福袋であれば、自分で選ばなかった図書に思いがけなく出会うのが面白いところだと思う。１冊の本を目指して来られた方が、本棚を見ているうちに、思いがけない図書と出会うことができるのが、図書館のよいところだと私ども職員は思っているので、それを体験してもらうのが福袋のねらいかと思い取組んでいる。

委員
　わたしは毎年、この福袋を利用しているが、本を自分で選ぶというのは、なかなか難しいことだと思うのでよい企画だと思う。ところで数量が昨年度は 160 袋で、今年度は 130 袋に減っているのはなぜか。

係長
　各館で分担して作業を進めていく過程で、調整のため減ったもの。

委員
　職員の方には負担があると思うが、人気があるのでむしろ増やしてほしい。令和５年度は大人のための福袋も計画されておりおもしろいと思う。

係長
　春に開催した子ども向け「よもよも」の福袋がとても好評で、すぐに全部貸出になったので、一度、大人の方にも思いがけない本に出会うという体験をしていただくため、一般書を３冊詰め合わせた福袋をやってみたいという意見が職員から出たので、秋の読書週間あわせて実施する。旅行、グルメ、ミステリーなど、テーマは各館にまかせている。どのようなテーマが出てくるのかも含めてお楽しみということで進めようと考えている。

委員
　福袋の貸出冊数は３冊でカウントするのか、１冊でカウントするのか。

係長
　貸出冊数３冊でカウントする。

委員
　福袋の数を増やせば、貸出件数も増えるのでは。本人が読もうと思った本を借りる場合はその１冊を借りるが、福袋の場合は結果的に読まない本があったとしても、３冊借りたとカウントされる。それで興味が湧いてどんどん貸出が増えれば良いと思う。

委員
　福袋に中高校生向きもあればよいと思う。一番本を読んでいないと思われる年代で、貸出冊数も少ない。この年代向けものがあれば、貸し出し冊数が増えるのではないか。「図書館職員がこれおもしろいよと言ってくれたから読んでみようかな。」と、そんなこともあったらよいと思う。

係長
　大人の福袋の結果を見て、検討していく。

委員
　中高生は学校で図書が借りられるので、ここの数字だけで本を読んでいないということではないと思う。学校の図書館で本が頻繁に借りられていたら、わざわざ図書館に行くというのはないかもしれない。司書の方が「この本は、学校にはない本ですが、図書館にはありますので借りてください。」という情報を出すのもいいと思う。

委員
　図書館見学とあるが、これは学校側から希望がないと行けないのか。

係長
　図書館見学は、学校からの希望により受けている。

委員
　特別支援学校は毎年見学されているが、学校や認定こども園を誘って「図書館ってこんなところだよ。」ということを、まずは知ってもらう機会を作れたらと思う。そうすると「また行こうかな。」と思う子もいるのではないか。園や学校にも図書の本があるが、これだけたくさんの本が並んでいたら、また後日、保護者と一緒に行ってみようと思うのではないか。図書館見学の機会を増やしてほしいと思う。

会長
　では、３．報告・協議事項の（２）令和５年度図書館事業についての説明に移りたい。

委員
　令和５年度は、新しくなったところ、強化したところを説明してほしい。

（２）令和５年度図書館事業について　　資料２

説明：係長

会長
　質問等お願いしたい。

委員
　ある記事で、「セカンドブック」という取り組みをみかけたのだが、小学校１年生全員や中学校１年生全員に本を配るところがあるようだ。１冊手元にあると読んでみようという気持ちになるのではないかと思うので「セカンドブック」という事業も新たに考えてみてもよいのではないかと思う。

会長
　足立委員からの提案ですが、今後検討してほしい。

係長
　検討してみたいと思う。
　ブックスタート事業で手渡しする絵本も、今年度は今までと違う絵本を購入しようと計画している。上に兄弟がいる場合や、絵本が好きな保護者であれば手持ちの絵本と重複する場合があるので、その場で違う絵本に交換し、新しい絵本を楽しんでいただけるような工夫をする。

副会長
　「大人のためのおはなし会」を 10 月 15 日開催予定で、現在、読み聞かせグループが集まって内容を考えている。
　読み聞かせグループのメンバーが、図書館の本を読んでおもしかった本をおすすめカードに書いて、「この本を私たちが読んでおもしろかったから読んでみて」という形で本とカードを展示して、ご紹介もしようと思っている。
　協議会委員の方も「図書館で借りた本でおもしろかったのでぜひ読んでみて」というのがあればカードを書いていただいき、本を並べることができたらうれしい。
　それから、計画段階だが手作り絵本作家の義積さんにもゲストで出演いただき、読み聞かせをしていただくほか、手作り絵本を会場に展示することも計画しているので、ぜひ来場いただきたい。

委員
　先日、春日で行われた義積さんと臼井さん、「風ごよみさん」がされたおはなし会は、社会教育・文化財課の主催だったとの事だが、図書館との関係も含めてどういう経過でできたのかお聞きしたい。

係長
　主催は、社会教育・文化財課の文化財係だったが、「戦争のおはなしをしてもらえないか。」という相談があった。場所が春日資料館周辺であったので、春日地域で活動されている読み聞かせグループ「風ごよみ」さんを、春日図書館から紹介したもの。

委員
　地域で活動されている方をそのように紹介していければよいと思う。
　私は今年、中学校の図書館サポーターとして、学校に久しぶりに行かせてもらった。自分が図書館担当の時にも感じていたが、地域の図書館でしている事業など、取組をもっと利用できたらと思う。
　図書館担当者と学校の図書室担当者を結びつけるような、あるいは一緒に研修したり、教えていただいたり、そのような相互の交流ができたらよいと思う。子どもたちに向けて、「図書館ではこんなことしているよ。」「こんなおもしろい取組があるよ。」とい

ったことを学校でもう少し紹介ができるような機会があってもいいのではと思う。
　特に電子図書は、学校でも聞いてみたがあまり使っていない。朝読の本もあるので、実際に使ってよいかどうかは中学校の許可がいるが、子どもたちにもっと使ってもらえるように学校に知らせていく、逆に学校で困っていることを助けていただく、そのような相互交流がいるのではないかと思う。

会長
　学校の取組の関係と図書館との連携の話ですが、学校現場の先生方はどうですか。

委員
　昨年電子図書導入の時、連携する機会があれば可能だとお話をした。ただ、市民を中心とした図書館と、学校の生徒児童を中心とした図書館は、重なるところとそうでないところがある。例えば、ネットワークシステムにしても、学校は別のネットワークになっている。もっと効率的に合わせれば、メール便でやりとりするということも考えられるが、色々な意味合いがあってそこまで進んでない。
　学校で図書館の事業を宣伝することは可能だが、それで結果が出るかどうかは別問題で、学校が全部背負うのも難しい。すべてが解決するわけではないが、１つの広報手段と捉えていただければ協力を惜しまない。

会長
　小学校の方はどうか。

委員
　先日、全国学力学習状況調査の結果が出た。児童質問紙調査があり、教育委員会の許可を得て図書館に関するおおまかな数字をお知らせする。

　＊読書は好きか。
　　兵庫県…好きなど肯定的意見　約７割
　　丹波市…約６割５分　県の平均的

　＊１日当たりの読書時間（平日）
　　30 分以上でみるとこれもほぼかわらない。
　　２時間以上となると少ない。

　＊１週間当たりの図書館・図書室の利用率（休み時間と土日）
　　毎日行く…なし
　　週に１回行く…なし
　　月に１回行く…２割弱
　　全く行かない…５割ほど

１回も行かない子がいるが、実は嬉しい話もあって、１つは図書室に行かなくても教室に本が常時常設して置いてあり、市の図書館から毎月、児童・人数に見合った本をコンテナで運んでもらっており、教室に本があるので、わざわざ図書室に行かなくてもよい。授業で調べ学習をするときに図書室へ行くような感じになっている。

もう１つは、子どもが自分の足で図書館まで行ける校区の子は限られているので、どうしても保護者が一緒に行く必要がある。

例えば、商業施設に図書館があったらまた状況は変わってくると思うが、それぞれ各町域にあるので子どもたちだけでは行きにくいのは物理的な問題もある。

もう１つは、経年比較でいうと、ここ３年ほど調べられていますが、小学校は１時間以上読んでいる子は少し減ってきているが、全く読まない子も減ってきている。だから、１時間以上は読まないが、10 分以上読んでいる子が一定数いる。この数字は、中学校は増えていると言われていたので、中学校はここ３年、力を入れて取り組まれているのではないかと言われていた。以上が児童質問紙調査から読み取れることである。

もう１つ、図書室に行くか行かないかの話だが、丹波市では、今年、毎日１日３時間ほど学校の手伝いをするスクールサポートスタッフを全校に配置された。いろいろな形で、学校で活動されているが、本校の場合は、「時間があったら図書室に行ってください。」とお願いしている。スクールサポートスタッフの方が、「図書室に行ったら、子どもが話をしに来てくれる。」と言われている。やはり、図書室に人がいるということは大事なことだと思う。

なかなか小学校では図書室に常駐できる方がいないので、こういったところも力を入れて地域の力を借りられたら良いなと思う。市内の学校には、そういう形で図書室を運営されているところもあるように聞いている。

この動きが広まったら、子どもたちが「人がいる図書室、息遣いが感じられる図書室」に通えるようになるのかなと思う。それが利用者の裾野を広げることに繋がったら良いと常々思っている。

会長

そういう話も聞いたうえで、皆さんからご意見をいただきたい。

委員

図書館サポーターとして中学校に入り、図書室づくりを見直すことができた。中学校の先生も本当に忙しく、図書室に常時いることは夢のまた夢で、図書の貸出業務を含めて図書委員に携わる時間もない。でも、だれかが図書室にいると生徒が来てくれる。「ここの本がないのはなぜか。」などと言いに来る。体制的にも難しい部分があると思うが、いつも誰かがいる図書室という点が大事だと思う。

地域の図書館も一緒で、司書が常にいて話ができるから行きたいと思う、地域住民としてもそこの気持ちは同じだと思う。

委員

先ほど地域づくりの拠点という話をしたが、図書館というのはどういところかという考え方を見直さないといけないというのが発言の趣旨だ。図書館は、本を読んだり借りたりする場所ではあるが、それだけではないということを考えておかないといけない。それで、いかに人に多く来ていただくかということだが、地域づくりの拠点という言い方をしたのは、何か行事とひっつけて図書館へ来てもらう、それで図書館の本に触れてもらうというイベントを行う必要があるのではないか。

例えば、「星を見る会をここでやりましょう。星に関するブックトークも加えて。」といような、何かそういうものをセットにして、子どもたちがここへ来る、親子でここへ来るということが必要ではないか。

お泊まり図書館などの事業もあるそうだが、地域の行事と図書館を結びつける行事を計画していったら、１つの地域づくりの活性化にも繋がるのではないか、また図書館の利用も増えるのではないかと思う。

先ほども意見が出ていたように、中央図書館ではなかなか場所が取れないが、分館では住民センターの会議室がある、となるので、分館で考えていくことと、中央館がやることの役割分担、事業の見直し、連携のあり方を見直していく機会にもなるかと思う。

それから、昨年配布された資料の中に「誰もが利用しやすい図書館を目指す」と記載があったが、逆に図書館を利用しにくい人というのは誰なのかと考えてみた。図書館に来たくても来ることが出来ない人というのは、例えば、赤ちゃんを育てているお母さん。子どもを連れて来られないし、家にも置いておけない。それから、発達に課題を持つお子さんをお持ちのお母さん、お父さん。急に大きな声を出すということが心配で、図書館に連れて行きたくてもいけない。

他にも、勤め人は、図書館に行きたいけれども、開いている時には来ることができない。そこで、例えばここを朝活に利用できないか。また、仕事が終わってから、勤め人がここの図書館を利用するには、午後７時から９時ごろまで開いているというような。誰もが使える、利用しやすい状況を作ろうと思ったら、そのようなことを何か１つでも考えていくことが大事かと思う。

会長

資料にもあるが、図書館のあり方について説明があるようだが、今回良いご意見をいただいていると思う。

委員

先ほどの「大人のためのおはなし会」の「大人」はどういう方を想定されているのか。「大人のためのおはなし会」があるならば、「おじいちゃんおばあちゃんのためのおはなし会」があってもいいのではないか。実際、わが家のおばあちゃんは、昔は図書館へ行っていたが、足が不自由で図書館に誰かが連れて行かなければいけない状態。もし、お年寄りのお世話をされている方が、「こんなことがあるなら一度連れて行こうか。ついでに本を借りて帰ろうか。」とならないか。

その地域の拠点ということで、おじいちゃんおばあちゃんの集まりで行うのも何か楽しそうだと思う。

会長

ありがとうございました。

いろいろな視点で、図書館という従来のちょっと敷居の高い、大人しくしていないといけないというような部分から脱皮していかなければ、というイメージも出てきていると感じる。戦争の紙芝居を作られた臼井さんの記事が、今日の新聞に載っていた。紙芝居を図書館の資料として寄贈いただくようなことも、地域の資料を保存するという観点から大事な部分だと思った。もちろん臼井さん本人が紙芝居で語られるのは大事なことだが、それを借りて、たくさんの人がおはなし会をできるというのも大事だと思う。
もう１点はビブリオバトル。長く実施しているが、固定客になっている感じがする。

発表する子どもも含めて、このようなことをやっていることが、マニアックな人にしか知られていない。図書館で行う事業、歴史講座も含めて固定客というイメージが強い。この図書館の視聴覚室か氷上住民センターかで場所も決まっているので、長年来ていた人が利用している。そのため、外向けの部分ができていないことが見え隠れしていると思う。

もしも図書館が商業施設にあったらという話も出ていたが、目的は買い物に来ているが、そんな催しがあるのだったら行ってみようという人もいるし、目的が催しでなくても興味を引かれて見に行くということもあると思う。今後、事業を考える時に、そういうことも意識して、場所選びや広報の仕方も考えていく必要があると思う。

今日、令和５年度の新しい計画の中に新しい部分はあまり出てこない。それがこれまでの図書館の形を脱皮できていない状態を示していると思う。変えたらだめなところは変えてはいけないが、変えていくところは変えていくことも大事だと感じた。

今日は全員に発言してもらい、学校の状況も詳しく説明いただいたので、今回の協議会の役割は果たせたかと思う。

副会長

「大人のためのおはなし会」は、おじいちゃんおばあちゃんも大人ですのでぜひ参加していただいたらと思う。しっかりおはなしが聞ける子なら、小学校高学年からでも来ていただいたらと思う。

場所の話だが、去年、柏原藩の陣屋跡でする話もあったが、色々なことがあり実現できなかった。しかしまた、場所をかえてのおはなし会も、これから検討したいと思う。それから、臼井さんともコラボして、おはなし会実施や戦争の話を伝えるという活動をやっていきたいと思う。

４．その他

説明：課長

貴重なご意見をありがとうございました。

丹波市立図書館のあり方を配布しているが、平成 27 年度から 10 年間の計画となっている。令和６年度に 10 年を迎えるので、来年度ここに書かれていることが実現できて

いるかという評価・検証を行いたい。さらに、令和７年度以降の図書館のあり方を検討する会議も開催させていただきたい。これにつきましては、委員の選定など、次回の協議会でスケジュールも含めて提示したい。

会長
　では、これで会議を閉じたいと思う。

５．閉　会

副会長（あいさつ）